

[年度]平成20年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] 冬季のマシン油乳剤散布によるウメのオウトウハダニの防除

[要約] ウメへのマシン油乳剤の冬季散布でオウトウハダニの発生初期の密度を抑制することができる。少発生条件下では、主幹部中心の部分散布としても樹全体への散布と同等の効果が得られる。

[キーワード] ウメ、オウトウハダニ、マシン油乳剤、防除

[担当機関名] 果樹試験場うめ研究所

[連絡先] 0739-74-3780

[部会名] 果樹

[分類] 研究

[背景・ねらい]

ハダニ類は年度による発生の差が大きく、多発して収穫前に落葉すると果実肥大に影響するなどの被害をもたらす。主な加害種であるオウトウハダニは樹上で成虫越冬することが知られている。そこで、越冬中のオウトウハダニ成虫の樹内での分布を明らかにし、休眠期のマシン油乳剤の防除効果および効率的な散布方法について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. オウトウハダニの成虫は粗皮下で越冬しており、特に日照不良部で多くの越冬成虫が確認される(図1)。
2. マシン油乳剤を12月下旬に1回散布すると、4月以降の発生が多発条件であっても5月下旬までの寄生雌成虫数が少なく推移する。スプレーオイルと機械油乳剤95の効果は同等である(図2)。
3. 4月以降の発生が少発条件下では、樹全体に散布した場合と主幹部中心に部分的に散布した場合のいずれも、寄生雌成虫数が無散布区と比較して4月下旬まで少なく推移し、その効果に差はない(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 平成21年1月現在、マシン油乳剤はウメではカイガラムシ類のみの登録で、試験研究目的以外でハダニ類対象の防除はできない。
2. オウトウハダニ越冬成虫は主幹部から主枝基部の粗皮下(特に日照不良部)に多いので、粗皮の隙間に薬液がかかるようにする。
3. 「南高」では花卉が見え始めると、小梅「白王」ではつぼみが膨らみ始めると、マシン油乳剤の散布で花器の生育傷害などの薬害が生じる可能性がある。

[具体的データ]

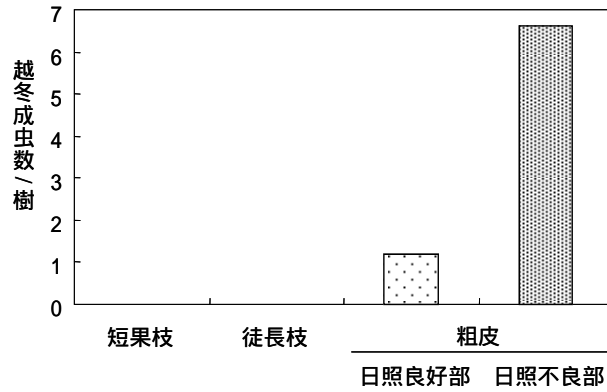


図1. 部位別の越冬成虫数

注) 短果枝、徒長枝：31年生「南高」1樹30枝 3樹調査
粗皮：31年生「南高」1樹あたり日照良好部、不良部それぞれ10カ所 15樹調査
調査日：平成18年11月21日

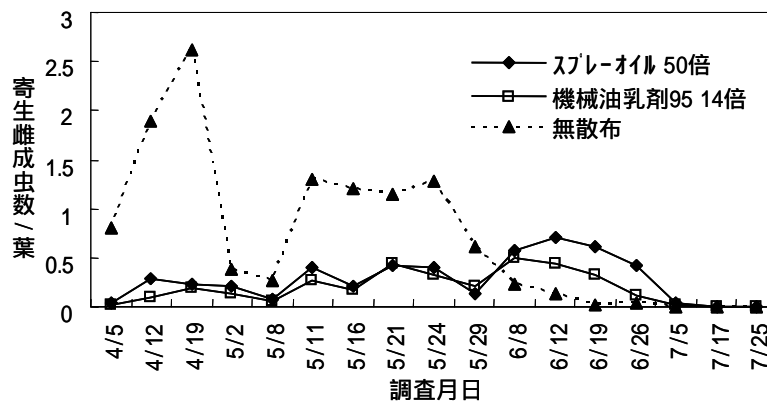


図2. 冬季にマシン油乳剤を散布したウメ樹冠内部におけるオウトウハダニの発生消長(2007年)

注) 品種および樹齢：「南高」31年生 散布日：2007年12月27日
発生条件：多発

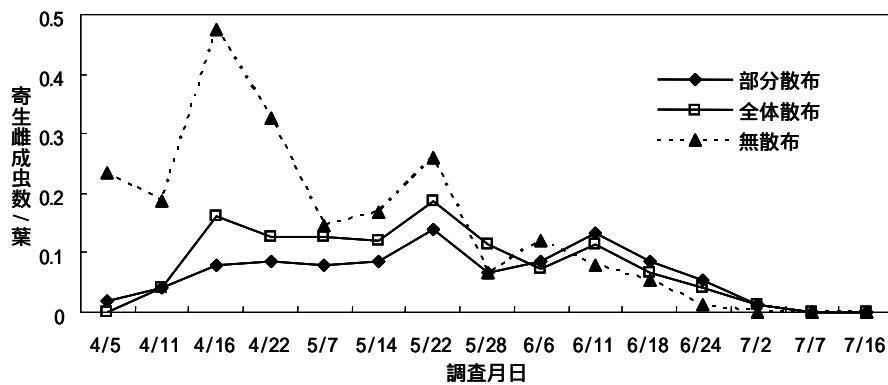


図3. 異なる方法でマシン油乳剤を散布したウメ樹冠内部におけるオウトウハダニの発生消長(2008年)

注) 品種および樹齢：「南高」32年生 供試薬剤および希釈倍数：スプレーオイル 50倍
散布日：2007年12月27日 発生条件：少発
部分散布は、高さ1.5～2mまでの粗皮がめくれた主幹および主枝基部に散布した

[その他]

研究課題名：うめの特性解明と好適栽培管理技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成18年～20年

研究担当者：菱池政志・島津康

発表論文等：なし